

第 2 章 食品製造業の生産動向

利用者のために

食品製造業 総合

- 1 畜産食料品
- 2 水産食料品
- 3 農産食料品
- 4 製穀粉・同加工品
- 5 食用油・同加工品
- 6 砂糖
- 7 調味料
- 8 飲料
- 9 菓子
- 10 調理食品
- 11 酒類

(参考) 主要品目の生産量の推移

(平成 22 年～令和 3 年)

利用者のために

1 食品製造業の生産量、出荷量、在庫量の収集

(1)調査の対象

食品製造業の生産量、出荷量、在庫量の把握については、下表のとおり、各部門の品目に関して標本調査及び既存調査資料の収集により行っている。標本調査は、食品需給研究センターがアンケート等の調査により実施したものである。既存調査資料は、農林水産省や関係団体等で実施された調査資料を収集し、活用したものである。

部 門	本調査の対象品目 (標本調査)	既存調査資料の収集品目 (農林水産省、業界団体、国税庁等)
1 畜産食料品	はっ酵乳・乳酸菌飲料 (非乳業)	食肉加工品、牛乳・乳製品、 食肉缶・びん詰
2 水産食料品	水産練製品	水産缶・びん詰
3 農産食料品	野菜・果実漬物 乾燥野菜	農産缶・びん詰、トマト加工 品
4 製穀粉・同加工品	製粉・穀粉、パン類、めん 類、マカロニ類	プレミックス、パン粉、小 麦でん粉
5 食用油・同加工品		植物油脂・加工油脂
6 砂糖		精製糖
7 調味料	味噌	しょうゆ等、マヨネーズ、 ドレッシング類
8 飲料	コーヒー、紅茶、緑茶、ウ ーロン茶、麦茶、 その他の茶系飲料	炭酸飲料、果実飲料、トマ ト飲料
9 菓子	ビスケット、米菓	
10 調理食品	加工米飯	調理缶・びん詰、レトルト食 品、包装もち
11 酒類		清酒、合成清酒、みりん、 焼酎、ビール 果実酒、リキュール、雑酒
12 その他の食品		植物油粕

(2)標本調査の概要

調査対象	調査対象企業数 552 社
調査時期	令和 3 年 4 月～令和 4 年 3 月
調査方法	郵送・F A X・メール・電話による聞き取り
回答企業数	298 社 (回答率約 54.0%)

2 食品製造業の生産指数、出荷指数、在庫指数の作成基準

(1)食品製造業生産指数

食品製造業生産指数のウェイトについては、「平成 28 年経済センサス-活動調査（経済産業省）」の食料品製造業の出荷額を基準として作成している。

ウェイトは、各部門別、業種別、品目別のウェイトを算出するが、調査資料のない品目のウェイトは、原則として、調査品目にふくらましを行い、部門及び全体の推計を行う（ふくらましウェイト方式）。

指数算出時点においてデータがすべて揃わない場合は、前年と同水準であるとする仮定のもと、該当する欠損値に前年の数値を用いて指数を算出している。

(2)食品製造業出荷指数

食品製造業出荷指数のウェイトについては、「平成 28 年経済センサス-活動調査（経済産業省）」の採用品目及び出荷額を基準に作成している。

(3)食品製造業在庫指数

食品製造業在庫指数のウェイトについては、「平成 28 年経済センサス-活動調査（経済産業省）」の採用品目及び出荷額を基準に作成している。

3 指数の計算方法

指数の計算方法は、次のとおり。

(1)指数算式

指数計算は対象品目別に基準数量で比較月の生産量を除し、品目指数を計算し、次にそれらの品目指数を業種別、部門別、さらに総合につき品目ウェイトで加重平均する。基準数量と品目ウェイトはあらかじめ算定し、固定しておくので、変化するのは月々の生産量のみである（ラスパイレス算式）。この指数算式は次のごとくである。

$$Q_t = \frac{\sum_{i=1}^n \frac{q_{ti}}{q_{0i}} w_{0i}}{\sum_{i=1}^n w_{0i}} \times 100.0$$

q : 生産量
 w : 生産額ウェイト
 i : 採用品目を示す添字
 0 : 基準時を示す添字
 t : 比較時を示す添字

生産指数の基準年は平成 27 年であり、基準数量は対象品目ごとの 27 年月平均生産数量である。指数値は 27 年月平均の比例数である。出荷指数と在庫指数についても同様の指数算式で行う。

(2) 指数改定

指数は、基準時から遠ざかるに従い新製品の登場、製品の品質変化、相対価格の変化等によって採用品目の代表性、ウェイト構成の妥当性が不安定になる。このため5年毎に基準時を移行し、改めて選定された採用品目と再計算されたウェイトによる改定基準を作成する必要がある。

(3)用語の解説

①暫定値：各総合指数を推計する際、現在の使用データが速報値であり、今後確定値に変更されるデータについては、暫定値としている。

②寄与度：他の内訳が変化しないとした場合に特定の内訳の変化が全体をどの程度の割合で変化させたかを表している。

$$\begin{aligned} \text{対前年増減寄与度} &= \text{各部門指数（当年指数－前年指数）} \times \text{ウェイト} \\ &\div \left(\text{総合指数（前年指数）} \times \text{ウェイト} \right) \times 100.0 \end{aligned}$$

③本報告書では上昇、低下、増加、減少の表現区分は次のようにしている。

前年並み	：	±1%未満
わずかに	：	±1～3%未満
やや	：	±3～6%未満
かなりの程度	：	±6～11%未満
かなり大きく	：	±11～16%未満
大幅に	：	±16%以上

食品製造業 総合

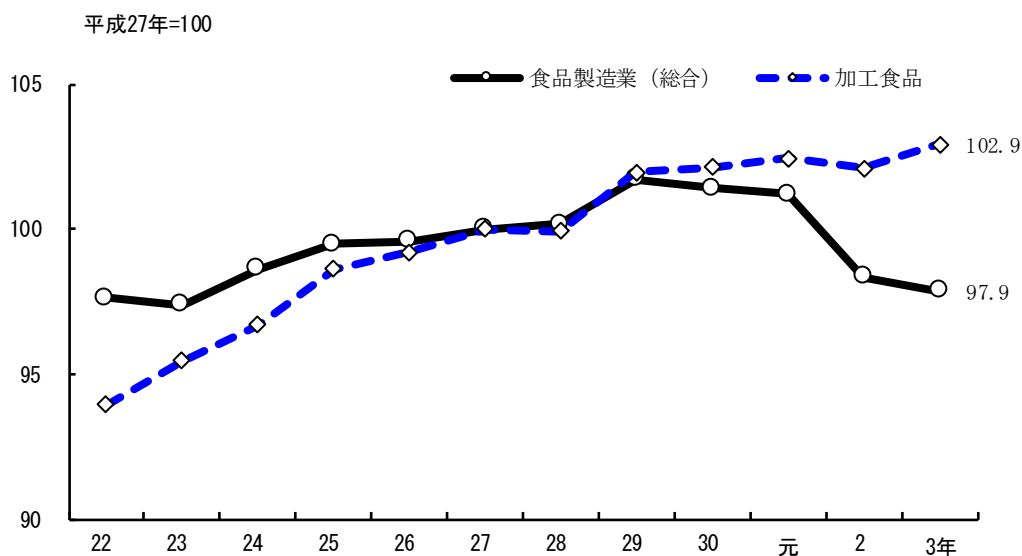
(1)生産指数

令和3年の食品製造業（総合）の生産指数は97.9で、対前年比▲0.5%と前年並み

令和3年の食品製造業（総合）の生産指数（平成27年=100、暫定値）は97.9で、対前年比▲0.5%と前年並みとなった。うち、飲料、酒類を除いた加工食品の生産指数（平成27年=100、暫定値）は102.9で、対前年比0.8%と前年並みであった。なお、近年の食品製造業（総合）の生産指数の推移についてみると、上昇傾向にあるが、平成30年以降は減少している（図2-1）。

対前年比を部門別にみると、水産食料品、調味料及びその他食品がやや上昇し、畜産食料品はわずかに上昇した。一方、酒類がかなりの程度低下し、砂糖及び飲料はわずかに低下した。また、農産食料品、製穀粉・同加工品、食用油・同加工品、菓子及び調理食品は前年並みとなった。なお、食品製造業（総合）の生産指数の対前年比に対する寄与を部門別にみると、調味料及び畜産食料品はプラスに、酒類及び飲料はマイナスであった（図2-2、表2-1）。

図2-1 食品製造業の生産指数の推移



注:加工食品は、食品製造業（総合）から飲料、酒類を除いたもの（以下同様）。

図 2-2 食品製造業の生産指数の対前年増減率、寄与度

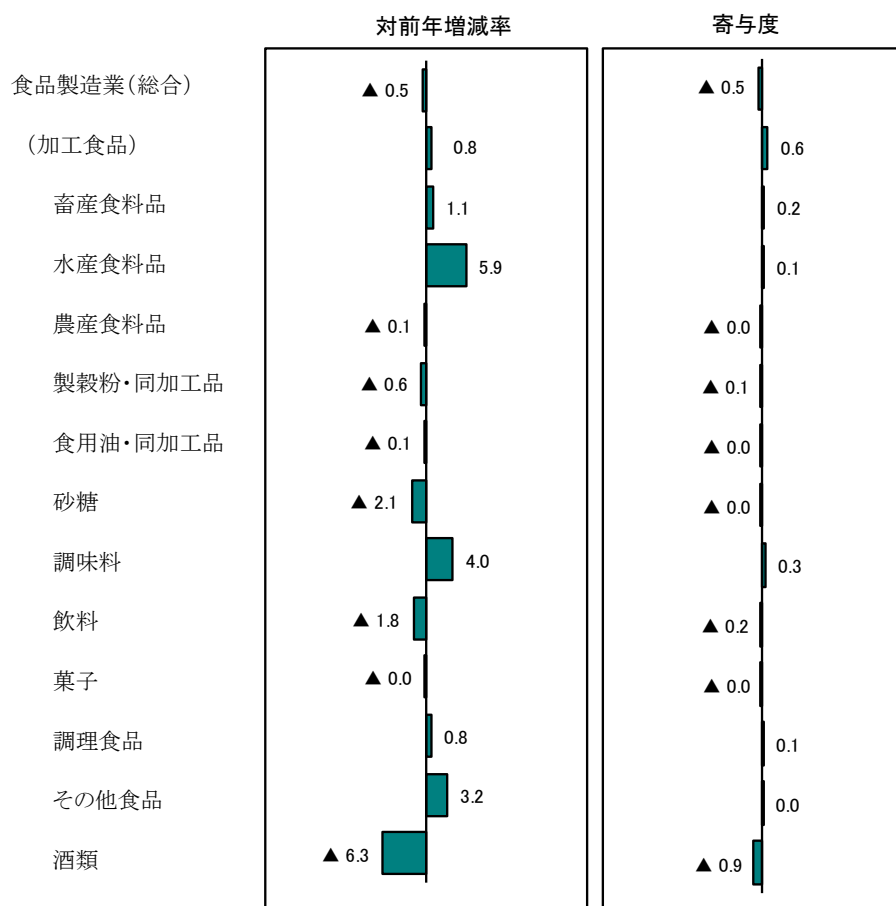


表 2-1 食品製造業の生産指数の推移

	ウェイト (27年)	指数 (27年=100)					対前年増減率 (%)					寄与度 3年/2年
		27年	30年	令和元年	2年	3年	27年	30年	令和元年	2年	3年	
食品製造業(総合)	10,000.0	100.0	101.4	101.2	98.3	97.9	0.4	▲ 0.3	▲ 0.2	▲ 2.8	▲ 0.5	▲ 0.5
(加工食品)	7,279.5	100.0	102.1	102.4	102.1	102.9	0.8	0.1	0.3	▲ 0.3	0.8	0.6
畜産食料品	1,630.5	100.0	104.1	102.8	103.2	104.3	0.1	0.6	▲ 1.2	0.3	1.1	0.2
水産食料品	258.6	100.0	97.2	98.3	88.6	93.8	▲ 0.8	2.1	1.2	▲ 9.9	5.9	0.1
農産食料品	410.3	100.0	95.6	97.3	100.9	100.9	0.7	0.2	1.8	3.8	▲ 0.1	▲ 0.0
製穀粉・同加工品	2,258.7	100.0	101.2	102.1	102.4	101.8	0.6	▲ 1.3	0.9	0.2	▲ 0.6	▲ 0.1
食用油・同加工品	391.5	100.0	97.6	97.4	93.2	93.1	0.7	▲ 2.3	▲ 0.2	▲ 4.3	▲ 0.1	▲ 0.0
砂糖	15.9	100.0	99.5	97.7	90.2	88.3	▲ 3.6	▲ 1.8	▲ 1.8	▲ 7.7	▲ 2.1	▲ 0.0
調味料	778.2	100.0	98.9	97.7	95.7	99.5	▲ 0.3	▲ 1.4	▲ 1.3	▲ 2.0	4.0	0.3
飲料	989.0	100.0	109.5	108.5	99.7	97.9	▲ 1.5	1.3	▲ 0.9	▲ 8.1	▲ 1.8	▲ 0.2
菓子	428.1	100.0	100.3	98.9	98.6	98.6	4.0	1.3	▲ 1.5	▲ 0.3	▲ 0.0	▲ 0.0
調理食品	992.2	100.0	110.2	112.9	114.0	114.9	2.2	3.8	2.4	1.0	0.8	0.1
その他食品	115.5	100.0	101.3	103.4	101.3	104.5	5.0	▲ 0.9	2.1	▲ 2.0	3.2	0.0
酒類	1,731.5	100.0	93.8	91.9	81.7	76.6	▲ 0.0	▲ 3.4	▲ 2.0	▲ 11.1	▲ 6.3	▲ 0.9

(2)出荷指数

令和3年の食品製造業（総合）の出荷指数は96.5で、対前年比▲0.9%と前年並み

令和3年の食品製造業（総合）の出荷指数（平成27年=100）は96.5で、対前年比▲0.9%と前年並みとなった。うち、加工食品の出荷指数（平成27年=100）は103.3で、対前年比1.2%とわずかに上昇した（図2-3）。

対前年比を部門別にみると、水産食料品がやや上昇し、畜産食料品、農産食料品及び製穀粉・同加工品はわずかに上昇した。一方、飲料及び酒類がかなりの程度低下し、食用油・同加工品及び砂糖がわずかに低下した。また、調味料、菓子、調理食品及びその他食品は前年並みとなった。なお、食品製造業（総合）の出荷指数の対前年比に対する寄与を部門別にみると、製穀粉・同加工品及び畜産食料品はプラスに、酒類及び飲料はマイナスであった（図2-4、表2-2）。

図2-3 食品製造業の出荷指数の推移

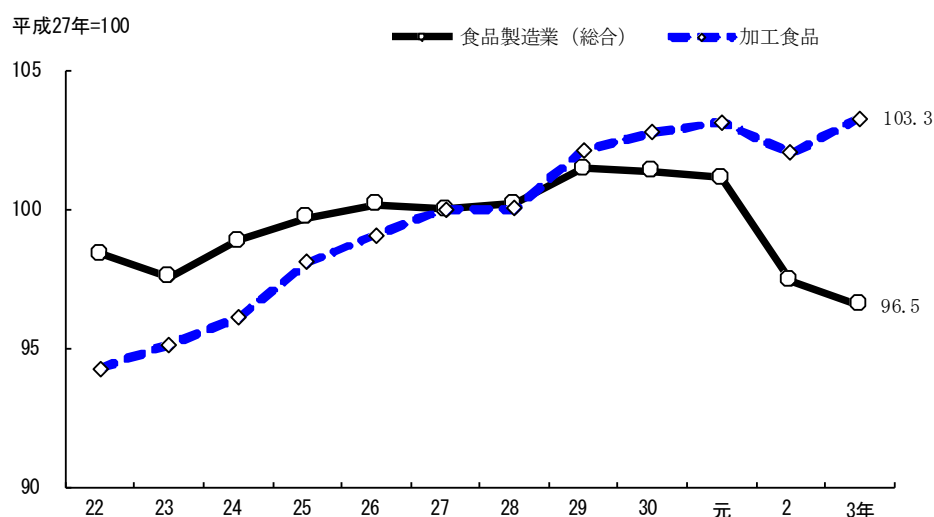


図 2-4 食品製造業の出荷指数の対前年増減率、寄与度

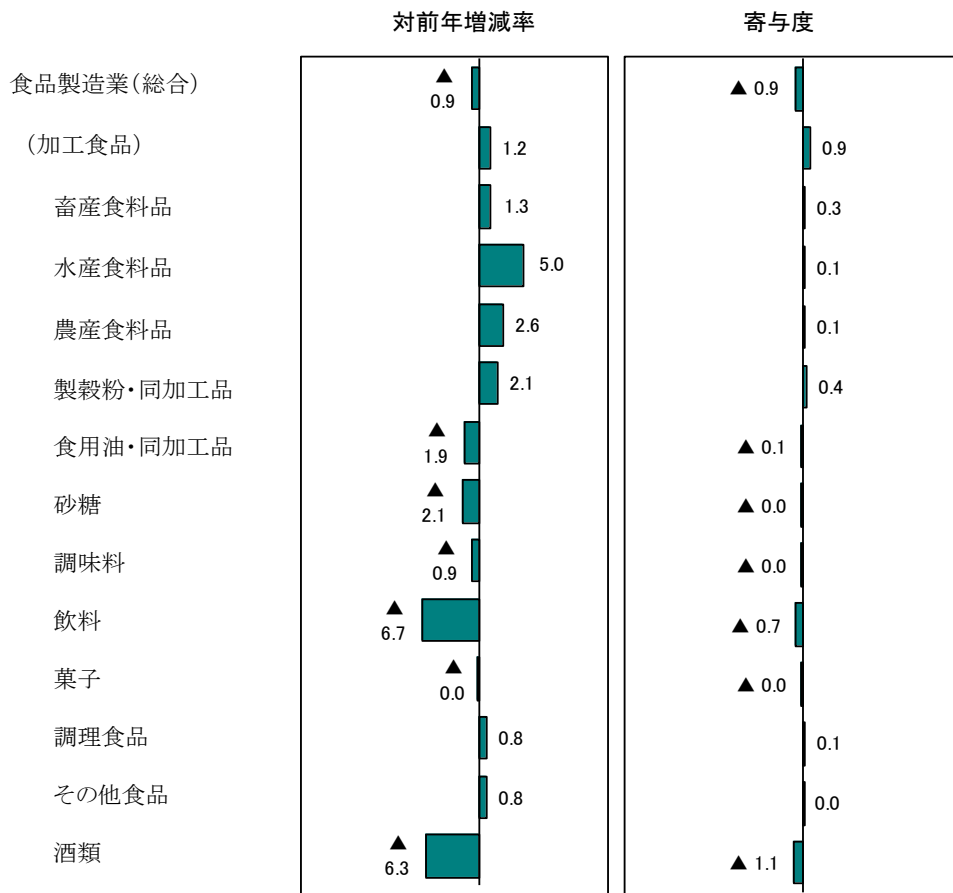


表 2-2 食品製造業の出荷指数の推移

	ウェイト (27年)	指数 (27年=100)					対前年増減率 (%)					寄与度 3年/2年
		27年	30年	令和元年	2年	3年	27年	30年	令和元年	2年	3年	
食品製造業(総合)	10,000.0	100.0	101.4	101.1	97.4	96.5	▲ 0.2	▲ 0.1	▲ 0.2	▲ 3.7	▲ 0.9	▲ 0.9
(加工食品)	6,901.1	100.0	102.8	103.1	102.0	103.3	0.9	0.6	0.4	▲ 1.1	1.2	0.9
畜産食料品	1,899.7	100.0	104.9	103.7	104.1	105.4	0.1	0.9	▲ 1.2	0.4	1.3	0.3
水産食料品	301.3	100.0	97.5	98.6	88.9	93.3	▲ 1.2	2.0	1.1	▲ 9.9	5.0	0.1
農産食料品	271.5	100.0	95.2	99.3	102.3	105.0	1.5	0.9	4.3	3.0	2.6	0.1
製穀粉・同加工品	1,964.9	100.0	100.2	100.8	98.3	100.3	0.6	▲ 1.0	0.5	▲ 2.5	2.1	0.4
食用油・同加工品	456.2	100.0	98.2	97.6	93.6	91.9	0.3	▲ 2.0	▲ 0.5	▲ 4.1	▲ 1.9	▲ 0.1
砂糖	18.5	100.0	99.5	97.7	90.2	88.3	▲ 3.6	▲ 1.8	▲ 1.8	▲ 7.7	▲ 2.1	▲ 0.0
調味料	199.5	100.0	101.2	101.4	98.4	97.5	▲ 0.7	▲ 1.0	0.3	▲ 3.0	▲ 0.9	▲ 0.0
飲料	1,081.5	100.0	106.6	105.4	97.4	90.9	▲ 6.9	1.1	▲ 1.1	▲ 7.6	▲ 6.7	▲ 0.7
菓子	498.8	100.0	100.3	98.9	98.6	98.6	4.0	1.3	▲ 1.5	▲ 0.3	▲ 0.0	▲ 0.0
調理食品	1,156.1	100.0	110.2	112.9	114.0	114.9	2.2	3.8	2.4	1.0	0.8	0.1
その他食品	134.5	100.0	99.7	102.4	100.6	101.4	6.7	▲ 1.8	2.8	▲ 1.8	0.8	0.0
酒類	2,017.4	100.0	93.8	91.9	81.7	76.6	▲ 0.0	▲ 3.4	▲ 2.0	▲ 11.1	▲ 6.3	▲ 1.1

(3)在庫指数

令和3年の食品製造業（総合）の在庫指数は103.7で、対前年比▲0.7%と前年並み

令和3年の食品製造業（総合）の在庫指数（平成27年=100）は103.7で、対前年比▲0.7%と前年並みとなった。うち、加工食品の在庫指数（平成27年=100）は88.1で、対前年比1.8%とわずかに上昇した（図2-5）。

部門別に対前年比をみると、水産食料品がかなりの程度上昇し、畜産食料品及びその他食品がやや上昇し、製穀粉・同加工品はわずかに上昇した。一方、食用油・同加工品がかなりの程度低下し、飲料がやや低下し。また、農産食料品は前年並みとなった（図2-6、表2-3）。

図2-5 食品製造業の在庫指数の推移

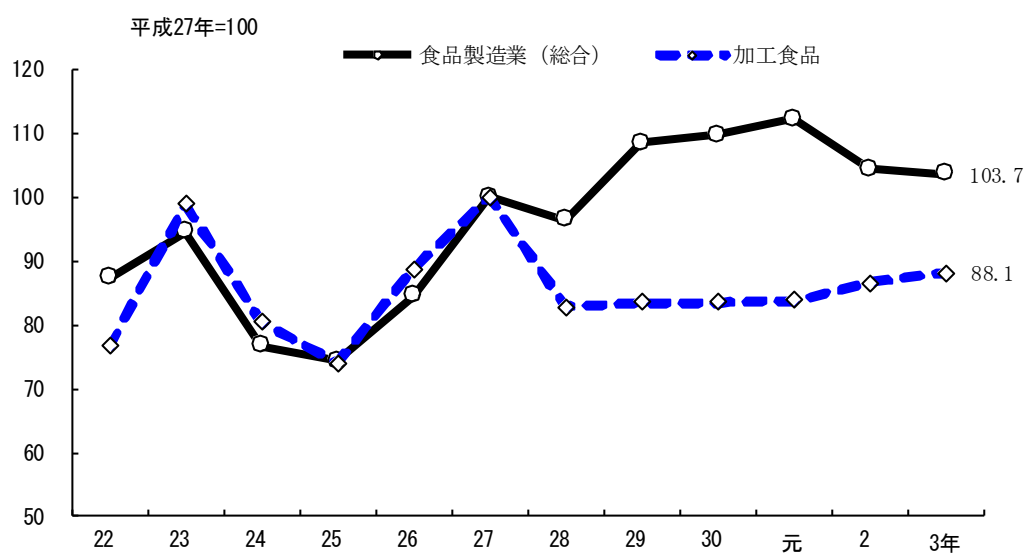


図 2-6 食品製造業の在庫指数の対前年増減率、寄与度

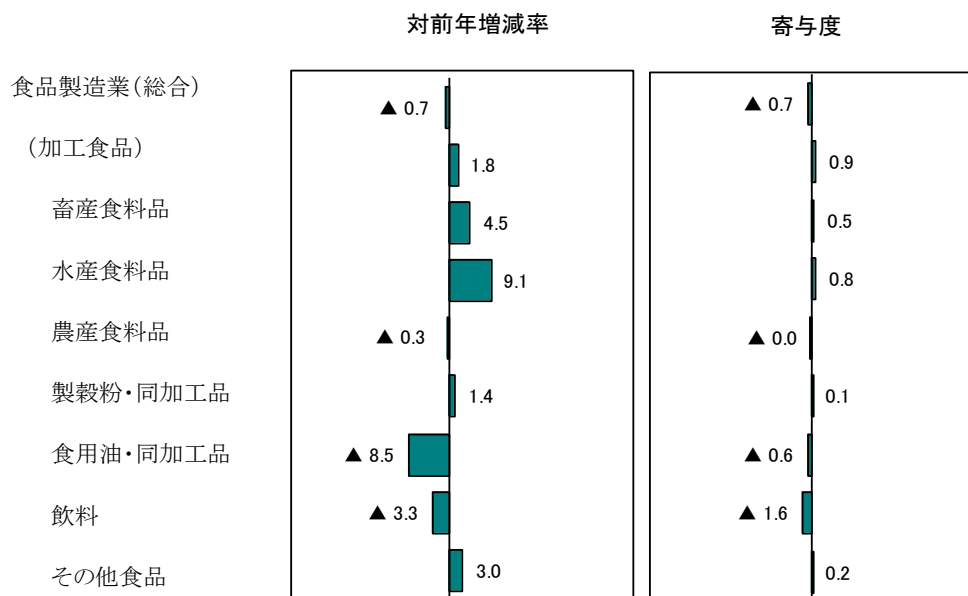


表 2-3 食品製造業の在庫指数の推移

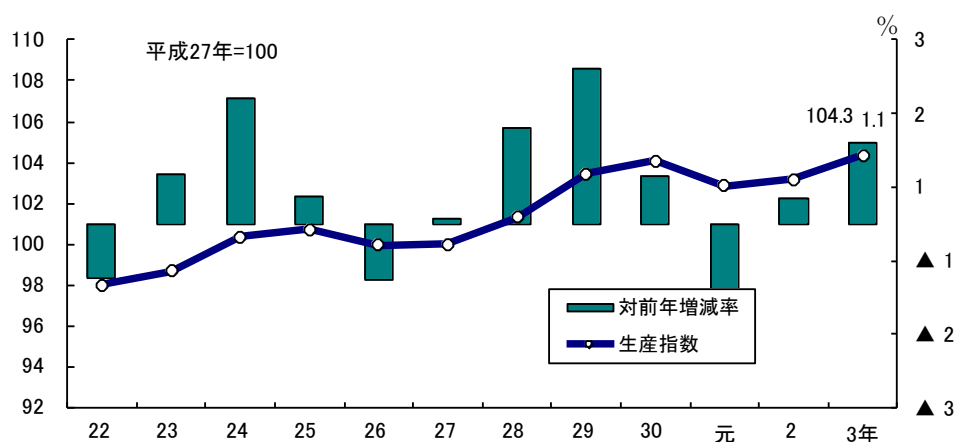
	ウェイト (27年)	指数 (27年=100)					対前年増減率 (%)					寄与度 3年/2年
		27年	30年	令和元年	2年	3年	27年	30年	令和元年	2年	3年	
食品製造業(総合)	10,000.0	100.0	109.8	112.3	104.4	103.7	18.3	1.2	2.4	▲ 7.0	▲ 0.7	▲ 0.7
(加工食品)	6,038.3	100.0	83.5	83.9	86.6	88.1	12.7	▲ 0.0	0.5	3.1	1.8	0.9
畜産食料品	1,195.3	100.0	75.2	69.8	89.2	93.2	61.5	▲ 6.4	▲ 7.2	27.8	4.5	0.5
水産食料品	1,372.4	100.0	62.1	67.2	68.3	74.5	41.5	▲ 3.6	8.1	1.7	9.1	0.8
農産食料品	1,236.3	100.0	100.3	100.5	100.6	100.3	▲ 1.5	▲ 0.1	0.1	0.1	▲ 0.3	▲ 0.0
製穀粉・同加工品	729.9	100.0	84.2	79.0	78.1	79.2	▲ 2.7	▲ 4.8	▲ 6.2	▲ 1.2	1.4	0.1
食用油・同加工品	880.4	100.0	78.4	85.5	83.3	76.2	22.2	▲ 9.9	9.0	▲ 2.6	▲ 8.5	▲ 0.6
飲料	3,961.7	100.0	149.7	155.6	131.7	127.4	27.9	2.3	3.9	▲ 15.4	▲ 3.3	▲ 1.6
その他食品	624.1	100.0	119.5	118.9	108.5	111.7	▲ 32.5	36.6	▲ 0.5	▲ 8.8	3.0	0.2

1 畜産食料品

令和3年の畜産食料品の生産指数（平成27年=100、暫定値）は104.3で、対前年比1.1%とわずかに上昇した。なお、近年の推移は、変動はあるが上昇傾向にある（図2-7）。

対前年比を品目別にみると、乳製品がやや上昇した。一方、食肉缶・びん詰が大幅に低下し、乳飲料がやや低下し、はっ酵乳・乳酸菌飲料はわずかに低下した。また、食肉加工品及び飲用牛乳等は前年並みであった。なお、対前年比に対する寄与を品目別にみると、乳製品はプラスであり、一方、食肉加工品、乳飲料及びはっ酵乳・乳酸菌飲料はマイナスであった（図2-8、表2-4）。

図2-7 畜産食料品の生産指数の推移



食肉加工品は前年並み、ベーコン類、ソーセージ類は前年並み、ハム類はわずかに低下

食肉加工品の生産量は55万4千トンで、生産指数は対前年比▲0.8%と前年並みとなった。内訳についてみると、ハム類の生産量は11万トンで、生産指数は対前年比▲2.4%とわずかに低下し、ベーコン類については生産量が9万8千トンで、生産指数は対前年比▲0.5%と前年並みとなった。また、ソーセージ類については生産量が31万7千トンで、生産指数は対前年比▲0.3%と前年並みとなった。

飲用牛乳等は前年並み、乳飲料はやや低下、はっ酵乳・乳酸菌飲料はわずかに低下

飲用牛乳等の生産量は357万5千klで、生産指数は対前年比0.0%と前年並みとなった。乳飲料は105万2千klで、生産指数は対前年比▲5.0%でやや低下した。また、はっ酵乳・乳酸菌飲料は177万2千klで、生産指数は対前年比▲1.3%とわずかに低下した。

乳製品類はやや上昇、バターはわずかに、脱脂粉乳はかなりの程度、チーズはやや上昇

乳製品類の生産量は46万2千トンで、生産指数は対前年比4.8%とやや上昇した。内訳についてみると、バターの生産量は7万3千トンで、生産指数は対前年比2.5%とわずかに上昇した。脱脂粉乳の生産量も15万5千トンで、生産指数は対前年比10.6%とかなりの程度上昇した。また、チーズの生産量は16万5千トンで、生産指数は対前年比3.0%とやや上昇した。

図 2-8 畜産食料品の品目別生産指数の対前年増減率、寄与度

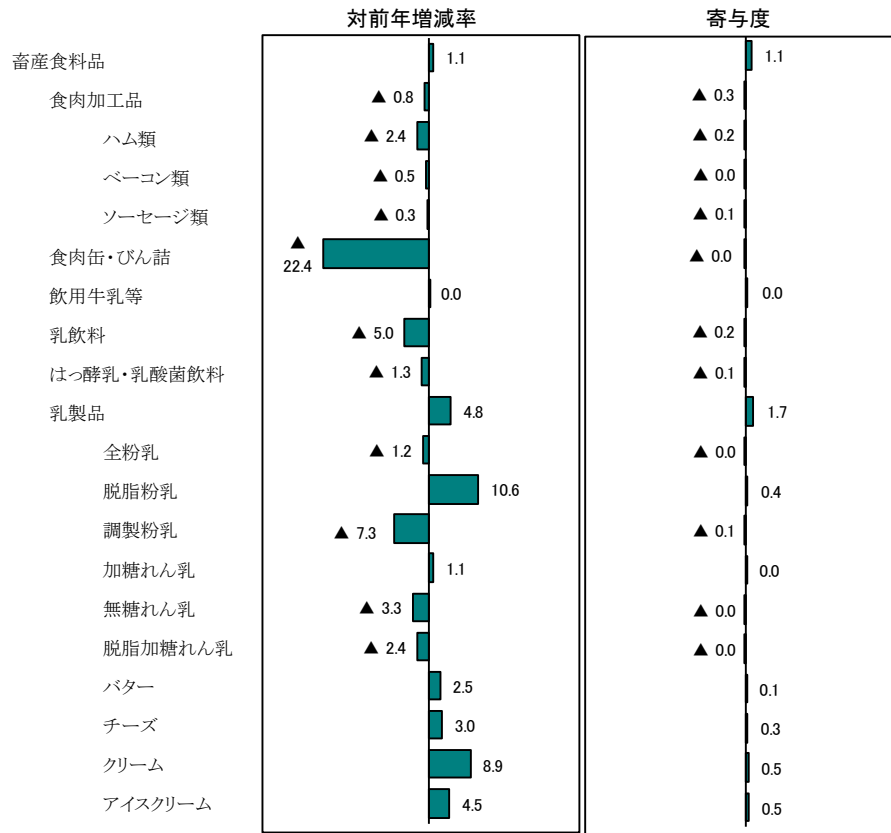


表 2-4 畜産食料品の品目別生産指数の推移

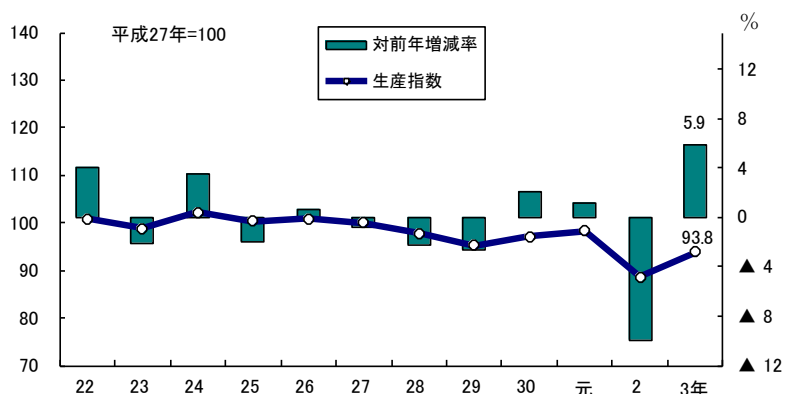
品目	年次 ウェイト (27年)	指数 (27年=100)					対前年増減率 (%)					寄与度 3年/2年
		27年	30年	令和元年	2年	3年	27年	30年	令和元年	2年	3年	
畜産食料品	1,630.5	100.0	104.1	102.8	103.2	104.3	0.1	0.6	▲ 1.2	0.3	1.1	1.1
食肉加工品	575.6	100.0	106.2	105.3	105.7	104.9	▲ 1.2	1.3	▲ 0.9	0.4	▲ 0.8	▲ 0.3
ハム類	120.7	100.0	106.9	107.4	107.2	104.6	▲ 1.2	1.5	0.5	▲ 0.2	▲ 2.4	▲ 0.2
ベーコン類	101.9	100.0	109.4	109.5	110.8	110.3	1.8	1.7	0.1	1.2	▲ 0.5	▲ 0.0
ソーセージ類	353.1	100.0	105.1	103.4	103.7	103.4	▲ 2.0	1.1	▲ 1.7	0.4	▲ 0.3	▲ 0.1
食肉缶・びん詰	3.0	100.0	93.7	100.6	92.8	72.0	▲ 7.7	5.0	7.4	▲ 7.8	▲ 22.4	▲ 0.0
飲用牛乳等	304.8	100.0	102.9	103.0	103.4	103.4	0.0	0.8	0.1	0.4	0.0	0.0
乳飲料	72.9	100.0	86.5	86.2	84.9	80.6	▲ 1.9	▲ 4.1	▲ 0.4	▲ 1.5	▲ 5.0	▲ 0.2
はっ酵乳・乳酸菌飲料	98.4	100.0	103.2	99.4	102.0	100.6	3.4	▲ 0.6	▲ 3.7	2.6	▲ 1.3	▲ 0.1
乳製品	575.7	100.0	105.0	103.0	103.1	108.0	1.0	0.6	▲ 1.9	0.1	4.8	1.7
全粉乳	5.0	100.0	82.6	84.2	76.4	75.5	▲ 1.8	4.0	2.0	▲ 9.3	▲ 1.2	▲ 0.0
脱脂粉乳	53.8	100.0	93.3	97.1	108.8	120.4	7.3	▲ 0.9	4.1	12.1	10.6	0.4
調製粉乳	11.0	100.0	105.6	103.9	107.3	99.4	▲ 1.3	4.0	▲ 1.6	3.3	▲ 7.3	▲ 0.1
加糖れん乳	14.5	100.0	93.3	98.5	87.3	88.3	2.6	▲ 6.4	5.5	▲ 11.3	1.1	0.0
無糖れん乳	0.3	100.0	72.8	66.0	61.3	59.2	▲ 6.2	▲ 1.7	▲ 9.3	▲ 7.2	▲ 3.3	▲ 0.0
脱脂加糖れん乳	1.6	100.0	103.1	102.8	89.1	87.0	▲ 5.8	10.7	▲ 0.3	▲ 13.3	▲ 2.4	▲ 0.0
バター	46.8	100.0	91.8	96.3	110.3	113.1	6.7	▲ 0.5	4.9	14.5	2.5	0.1
チーズ	153.3	100.0	110.4	109.3	112.3	115.6	12.1	5.4	▲ 1.0	2.8	3.0	0.3
クリーム	90.0	100.0	100.6	100.7	95.4	103.9	▲ 1.4	0.4	0.1	▲ 5.3	8.9	0.5
アイスクリーム	199.5	100.0	110.6	103.2	98.1	102.5	▲ 7.4	▲ 2.0	▲ 6.7	▲ 4.9	4.5	0.5

2 水産食料品

令和3年の水産食料品の生産指数（平成27年=100、暫定値）は93.8で、対前年比5.9%とやや上昇した。令和2年には感染症の影響により生産が大きく落ち込んだと見受けられるが、3年には回復傾向にある（図2-9）。

対前年比を品目別にみると、ちくわ・かまぼこ類はかなりの程度上昇した。一方、水産缶・びん詰はかなりの程度低下した。なお、対前年比に対する寄与を品目別にみると、ちくわかまぼこ類はプラスであり、水産缶・びん詰はマイナスであった（図2-10、表2-5）。

図2-9 水産食料品の生産指数の推移



ちくわ・かまぼこ類はかなりの程度上昇、水産缶・びん詰はかなりの程度低下

ちくわ・かまぼこ類の生産量は45万3千トンで、生産指数は対前年比10.4%とかなりの程度上昇した。一方、水産缶・びん詰の生産量は9万4千トンで、生産指数は対前年比▲7.4%とかなりの程度低下した。

図2-10 水産食料品の品目別生産指数の対前年増減率、寄与度

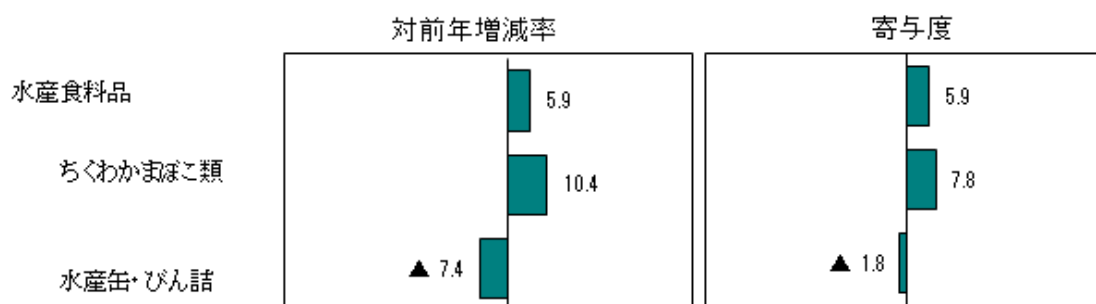


表2-5 水産食料品の品目別生産指数の推移

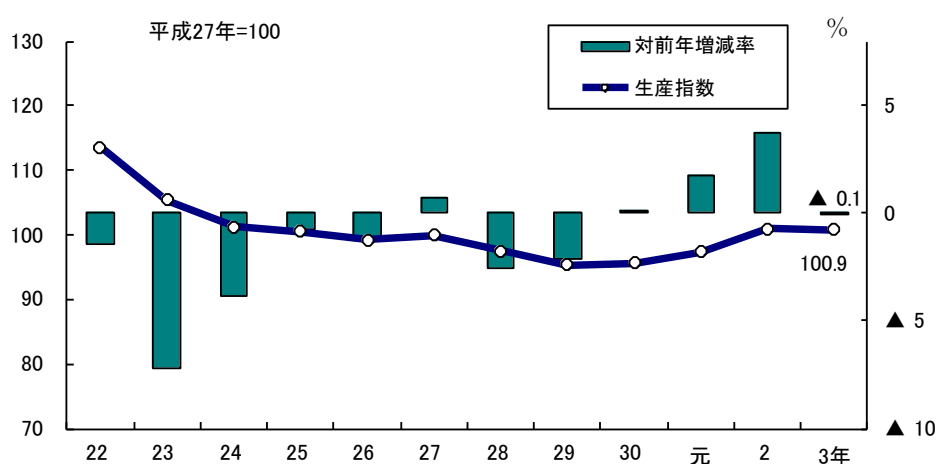
品目	年次 ウェイト (27年)	指数 (27年=100)					対前年増減率 (%)					寄与度 3年/2年
		27年	30年	令和元年	2年	3年	27年	30年	令和元年	2年	3年	
水産食料品	258.6	100.0	97.2	98.3	88.6	93.8	▲0.8	2.1	1.2	▲9.9	5.9	5.9
ちくわかまぼこ類	196.8	100.0	95.4	93.5	87.2	96.3	0.0	1.1	▲2.0	▲6.7	10.4	7.8
水産缶・びん詰	61.9	100.0	102.8	113.7	92.9	86.0	▲3.4	5.3	10.6	▲18.3	▲7.4	▲1.8

3 農産食料品

令和3年の農産食料品の生産指数（平成27年=100、暫定値）は100.9で、対前年比▲0.1%と前年並みとなった。なお、近年の推移は、平成29年までは低下傾向にあったが、平成30年以降増加傾向で推移していたが、令和3年には再び減少に転じている（図2-11）。

対前年比を品目別にみると、野菜・果実漬物はやや上昇した。一方、農産缶・びん詰はかなりの程度低下し、トマト加工品はやや低下した。また、乾燥野菜は前年並みとなった。なお、対前年比に対する寄与を品目別にみると、野菜・果実漬物はプラス、トマト加工品及び農産缶・びん詰はマイナスであった（図2-12、表2-6）。

図2-11 農産食料品の生産指数の推移



野菜・果実漬物はやや上昇

野菜・果実漬物の生産量は81万7千トンで、生産指数は対前年比5.1%とやや上昇した。内訳についてみると、塩漬類の生産量は10万8千トンで、生産指数は対前年比▲1.4%とわずかに低下、酢漬類の生産量は10万9千トンで、生産指数は対前年比2.8%とわずかに上昇した。浅漬類の生産量は14万8千トンで、生産指数は対前年比2.7%とわずかに上昇し、醤油漬類も36万トンで、生産指数は対前年比7.8%とかなりの程度上昇した。

農産缶・びん詰はかなりの程度低下

農産缶・びん詰の生産量は11万トンで、生産指数は対前年比▲9.6%とかなりの程度低下した。内訳についてみると、野菜缶・びん詰が3万9千トンで、生産指数は対前年比▲10.0%とかなりの程度低下した。また、果実缶・びん詰は4万2千トンで、生産指数は対前年比▲11.3%とかなり大きく低下した、また、ジャムびんの生産量は3万トンで、生産指数は対前年比▲4.5%とやや低下した。

トマト加工品はやや低下

トマト加工品の生産量は9万6千トンで、生産指数は対前年比▲3.9%とやや低下した。ト

マトピューレの生産量が前年を上回ったものの、トマトケチャップ及びその他トマトの生産量は前年を下回ったため、全体でもやや低下した。

図 2-12 農産食料品の品目別生産指数の対前年増減率、寄与度

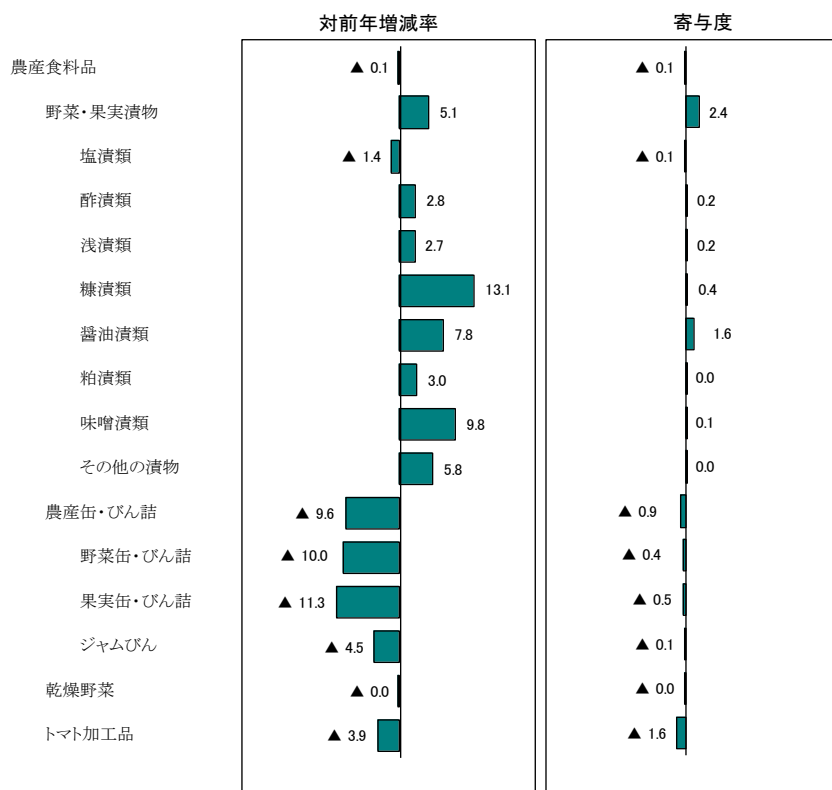


表 2-6 農産食料品の品目別生産指数の推移

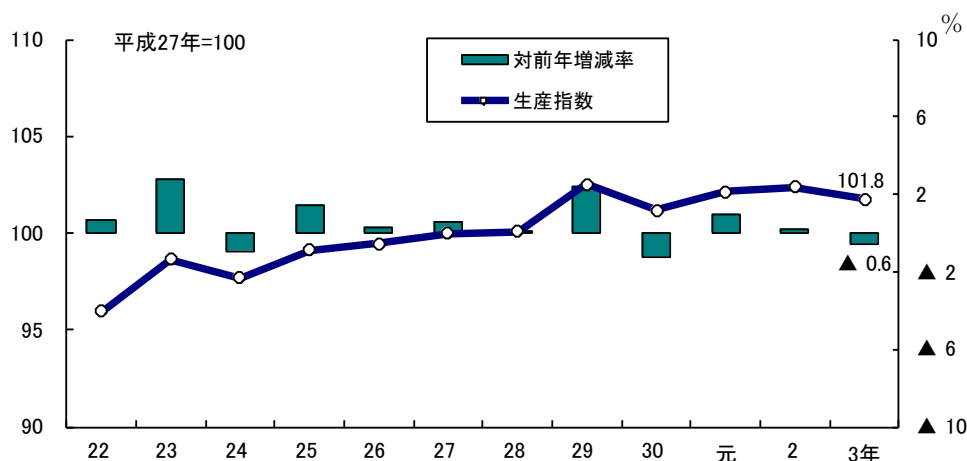
品目	年次	ウェイト (27年)	指数 (27年=100)					対前年増減率 (%)					寄与度 3年/2年
			27年	30年	令和元年	2年	3年	27年	30年	令和元年	2年	3年	
農産食料品		410.3	100.0	95.6	97.3	100.9	100.9	0.7	0.2	1.8	3.8	▲ 0.1	▲ 0.1
野菜・果実漬物		184.7	100.0	97.6	102.7	107.5	113.0	2.5	1.9	5.2	4.7	5.1	2.4
塩漬類		27.8	100.0	105.1	103.8	100.7	99.2	8.4	1.6	▲ 1.2	▲ 3.0	▲ 1.4	▲ 0.1
酢漬類		19.1	100.0	132.1	138.2	141.3	145.3	6.0	13.1	4.6	2.2	2.8	0.2
浅漬類		34.3	100.0	94.1	102.6	107.3	110.1	13.3	▲ 2.6	9.0	4.6	2.7	0.2
糠漬類		11.9	100.0	92.0	91.0	98.2	111.1	▲ 7.9	▲ 10.2	▲ 1.1	7.9	13.1	0.4
醤油漬類		81.6	100.0	89.4	96.4	104.7	112.8	▲ 2.0	3.1	7.8	8.6	7.8	1.6
粕漬類		5.9	100.0	84.5	80.7	72.0	74.2	▲ 8.1	▲ 1.7	▲ 4.6	▲ 10.8	3.0	0.0
味噌漬類		1.9	100.0	124.1	127.0	133.3	146.3	28.6	0.2	2.3	4.9	9.8	0.1
その他の漬物		2.3	100.0	99.4	114.5	130.4	137.9	1.7	0.8	15.3	13.8	5.8	0.0
農産缶・びん詰		48.3	100.0	86.1	86.4	82.5	74.6	▲ 2.1	▲ 3.1	0.4	▲ 4.5	▲ 9.6	▲ 0.9
野菜缶・びん詰		20.6	100.0	79.0	65.3	74.2	66.8	0.2	▲ 6.4	▲ 17.3	13.7	▲ 10.0	▲ 0.4
果実缶・びん詰		19.8	100.0	89.8	104.2	89.0	78.9	▲ 4.6	▲ 1.6	16.1	▲ 14.6	▲ 11.3	▲ 0.5
ジャムびん		7.9	100.0	95.7	97.0	87.9	83.9	▲ 1.0	0.7	1.3	▲ 9.4	▲ 4.5	▲ 0.1
乾燥野菜		8.9	100.0	100.3	100.2	100.1	100.1	0.0	0.0	▲ 0.1	▲ 0.1	▲ 0.0	▲ 0.0
トマト加工品		168.3	100.0	95.8	94.3	99.0	95.1	▲ 0.3	▲ 0.9	▲ 1.6	5.0	▲ 3.9	▲ 1.6

4 製穀粉・同加工品

令和3年の製穀粉・同加工品の生産指数（平成27年=100、暫定値）は101.8で、対前年比▲0.6%と前年並みとなった。なお、近年の推移は、変動はあるが上昇傾向にある（図2-13）。

対前年比を品目別にみると、パン類及びパン粉はわずかに上昇したが、製粉・穀粉はやや低下し、めん類はわずかに低下した。なお、対前年比に対する寄与を品目別にみると、パン類はプラス、めん類及び製粉・穀粉はマイナスであった（図2-14、表2-7）。

図2-13 製穀粉・同加工品の生産指数の推移



製粉・穀粉はやや低下

製粉・穀粉の生産量は44万3千トンで、生産指数は対前年比▲5.9%とやや低下した。プレミックスが同▲0.8%で前年並みだったものの、米穀粉が▲6.7%とかなりの程度低下した。

めん類はわずかに低下

めん類の小麦粉使用量は150万5千トンで、生産指数は対前年比▲1.5%とわずかに低下した。内訳についてみると、生めん類の小麦粉使用量は75万9千トンで、生産指数は対前年比2.6%とわずかに上昇した。一方、乾めん類は19万トンで、生産指数は対前年比▲3.1%とやや低下した。また、即席めん類は39万7千トンで、生産指数は対前年比▲3.6%とやや低下した。マカロニ類も15万9千トンで、生産指数は対前年比▲5.2%とやや低下した。

パンはわずかに低下

パンの小麦粉使用量は124万2トンで、生産指数は対前年比▲1.2%とわずかに低下した。内訳についてみると、食パンの小麦粉使用量は57万8千トンで、生産指数は対前年比▲4.8%とやや低下、菓子パンは41万6千トンで、生産指数は対前年比0.4%と前年並みとなった。一方、学給パンは2万4千トンと、令和2年の感染症による休校の影響から回復し、生産指数は対前年比15.5%とかなり大きく上昇した。また、その他パンは22万4千トンで、生産指数は対前年比0.9%と前年並みとなった。

図 2-14 製穀粉・同加工品の品目別生産指数の対前年増減率、寄与度

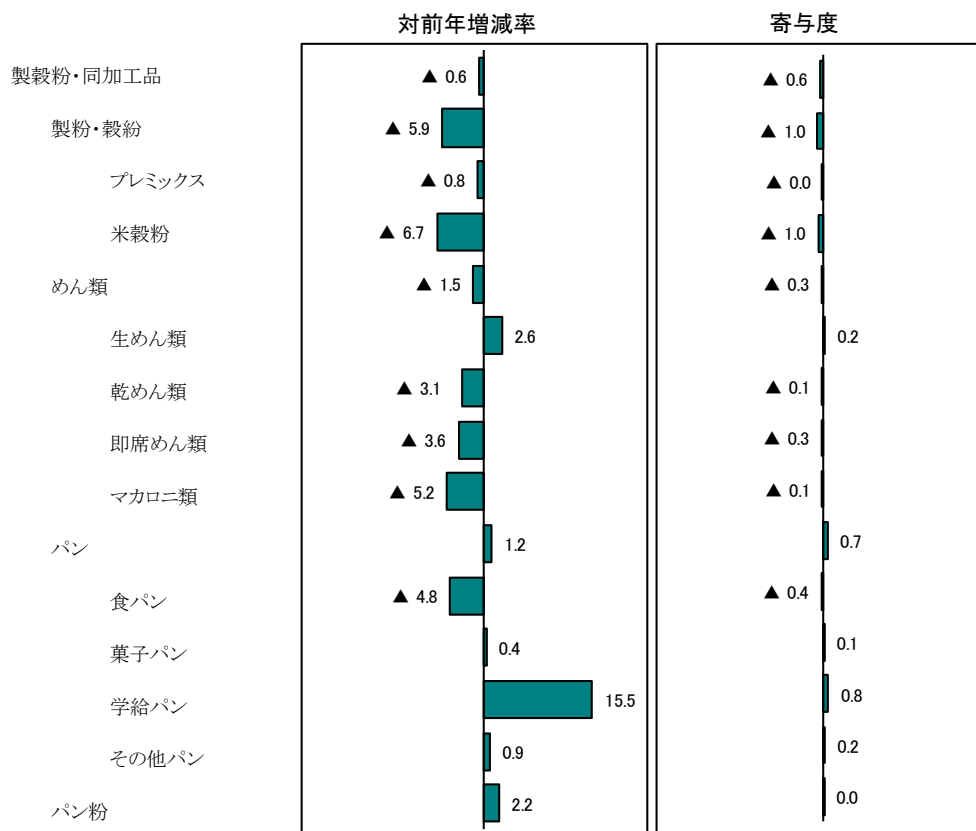


表 2-7 製穀粉・同加工品の品目別生産指数の推移

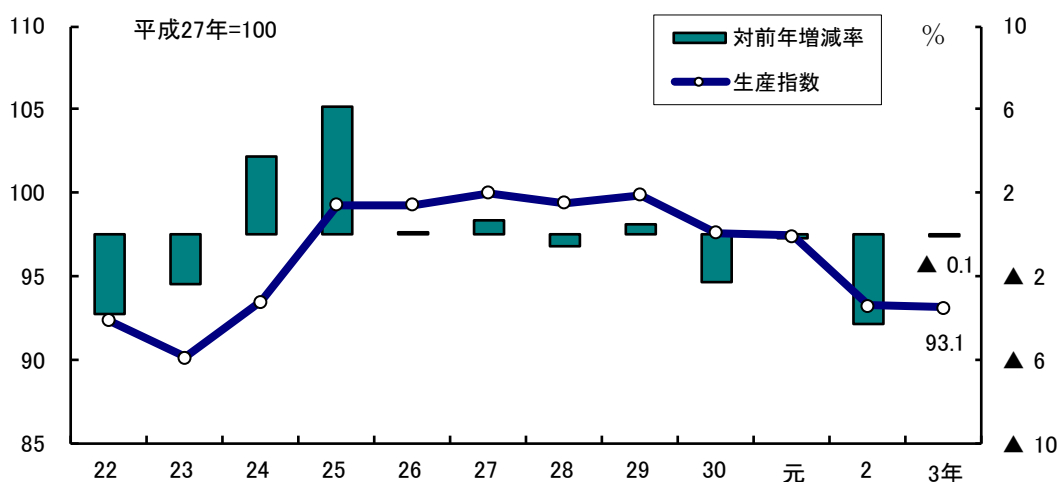
品目	年次 ウェイト (27年)	指数 (27年=100)					対前年増減率 (%)					寄与度 3年/2年
		27年	30年	令和元年	2年	3年	27年	30年	令和元年	2年	3年	
製穀粉・同加工品	2,258.7	100.0	101.2	102.1	102.4	101.8	0.6	▲ 1.3	0.9	0.2	▲ 0.6	▲ 0.6
製粉・穀紛	395.8	100.0	99.4	97.0	96.4	90.8	6.0	▲ 0.5	▲ 2.4	▲ 0.6	▲ 5.9	▲ 1.0
プレミックス	54.1	100.0	100.0	101.2	97.8	97.0	0.9	2.3	1.3	▲ 3.4	▲ 0.8	▲ 0.0
米穀粉	341.7	100.0	99.3	96.3	96.2	89.8	6.8	▲ 1.0	▲ 3.0	▲ 0.1	▲ 6.7	▲ 1.0
めん類	510.3	100.0	103.8	103.9	105.9	104.3	0.5	1.6	0.0	1.9	▲ 1.5	▲ 0.3
生めん類	158.2	100.0	114.1	113.4	118.6	121.7	8.1	3.1	▲ 0.6	4.6	2.6	0.2
乾めん類	104.6	100.0	96.3	95.3	100.7	97.6	▲ 8.5	0.8	▲ 1.0	5.6	▲ 3.1	▲ 0.1
即席めん類	214.8	100.0	101.5	102.1	99.5	95.9	0.9	1.0	0.5	▲ 2.5	▲ 3.6	▲ 0.3
マカロニ類	32.6	100.0	93.7	97.0	102.5	97.1	▲ 4.0	0.6	3.5	5.7	▲ 5.2	▲ 0.1
パン	1,325.0	100.0	100.7	103.0	102.9	104.1	▲ 0.9	▲ 2.6	2.3	▲ 0.1	1.2	0.7
食パン	202.0	100.0	96.7	98.6	100.4	95.6	▲ 0.6	▲ 2.8	2.0	1.8	▲ 4.8	▲ 0.4
菓子パン	522.5	100.0	99.5	101.1	102.9	103.3	4.3	▲ 2.0	1.6	1.8	0.4	0.1
学給パン	148.8	100.0	98.6	97.8	83.5	96.5	▲ 3.7	▲ 2.1	▲ 0.8	▲ 14.6	15.5	0.8
その他パン	451.6	100.0	104.5	108.9	110.4	111.3	▲ 5.7	▲ 3.3	4.2	1.4	0.9	0.2
パン粉	27.6	100.0	102.5	101.3	97.5	99.6	2.3	▲ 0.5	▲ 1.2	▲ 3.8	2.2	0.0

5 食用油・同加工品

令和3年の食用油・同加工品の生産指数（平成27年=100、暫定値）は93.1で、対前年比▲0.1%と前年並みとなった。なお、近年の推移は、平成25年から平成29年にかけて横ばいであったが、平成30年以降は低下傾向で推移している（図2-15）。

対前年比を品目別にみると、植物油脂はわずかに上昇し、一方、加工油脂はわずかに低下した。なお、対前年比に対する寄与を品目別にみると、植物油脂はプラス、加工油脂はマイナスであった（図2-16、表2-8）。

図2-15 食用油・同加工品の生産指数の推移



植物油脂はやや低下、加工油脂は前年並み

植物油脂の生産量は167万5千トンで、生産指数は対前年比2.7%とわずかに上昇した。一方、加工油脂の生産量は64万5千トンで、生産指数は対前年比▲1.5%とわずかに上昇した。加工油脂について内訳をみると、マーガリンは13万6千トンで、生産指数は対前年比▲3.8%とやや低下した。一方、ショートニングは21万3千トンで、生産指数は対前年比3.8%とやや上昇した。

図 2-16 食用油・同加工品の品目別生産指数の対前年増減率、寄与度

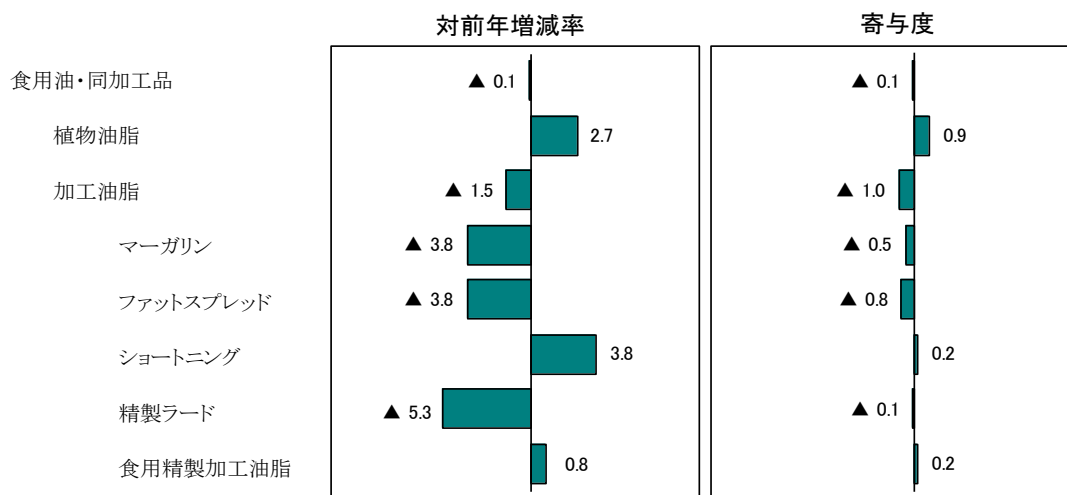


表 2-8 食用油・同加工品の品目別生産指数の推移

品目	年次	ウェイト (27年)	指数 (27年=100)					対前年増減率 (%)					寄与度 3年/2年
			27年	30年	令和元年	2年	2年	27年	30年	令和元年	2年	3年	
食用油・同加工品		391.5	100.0	97.6	97.4	93.2	93.1	0.7	▲ 2.3	▲ 0.2	▲ 4.3	▲ 0.1	▲ 0.1
植物油脂		126.2	100.0	100.3	101.0	96.2	98.8	1.9	▲ 2.1	0.7	▲ 4.7	2.7	0.9
加工油脂		265.3	100.0	96.3	95.7	91.8	90.4	0.2	▲ 2.3	▲ 0.6	▲ 4.1	▲ 1.5	▲ 1.0
マーガリン		53.6	100.0	97.1	100.1	93.9	90.3	0.8	▲ 2.7	3.1	▲ 6.2	▲ 3.8	▲ 0.5
ファットスプレッド		81.0	100.0	97.1	100.1	94.0	90.4	0.9	▲ 2.6	3.1	▲ 6.1	▲ 3.8	▲ 0.8
ショートニング		25.0	100.0	91.7	88.2	82.0	85.2	2.3	▲ 2.9	▲ 3.8	▲ 7.0	3.8	0.2
精製ラード		6.5	100.0	101.9	105.0	101.0	95.7	▲ 13.1	▲ 0.2	3.0	▲ 3.8	▲ 5.3	▲ 0.1
食用精製加工油脂		99.1	100.0	96.1	91.1	90.7	91.5	▲ 0.3	▲ 2.0	▲ 5.2	▲ 0.4	0.8	0.2

6 砂糖

令和3年の砂糖の生産指数（平成27年=100、一部推定を含む暫定値）は88.3で、対前年比▲2.1%とわずかに低下した。なお、近年の推移は、変動はあるが低下傾向にある（図2-17）。

対前年比を品目別にみると、氷糖が大幅に上昇し、液糖がやや上昇した。一方、中双及び角糖が対前年比で大幅に低下した。また、白双がかなりの程度低下し、グラニュー糖、中白及び上白がやや低下し、三温はわずかに低下した。なお、対前年比に対する寄与を品目別にみると、液糖はプラスであり、グラニュー糖及び上白はマイナスであった（図2-18、表2-9）。

図2-17 砂糖の生産指数の推移

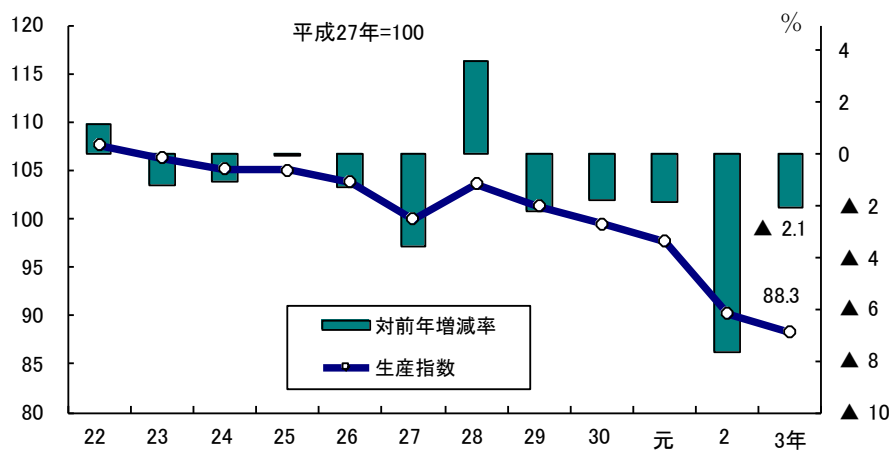


図 2-18 砂糖の品目別生産指数の対前年増減率、寄与度

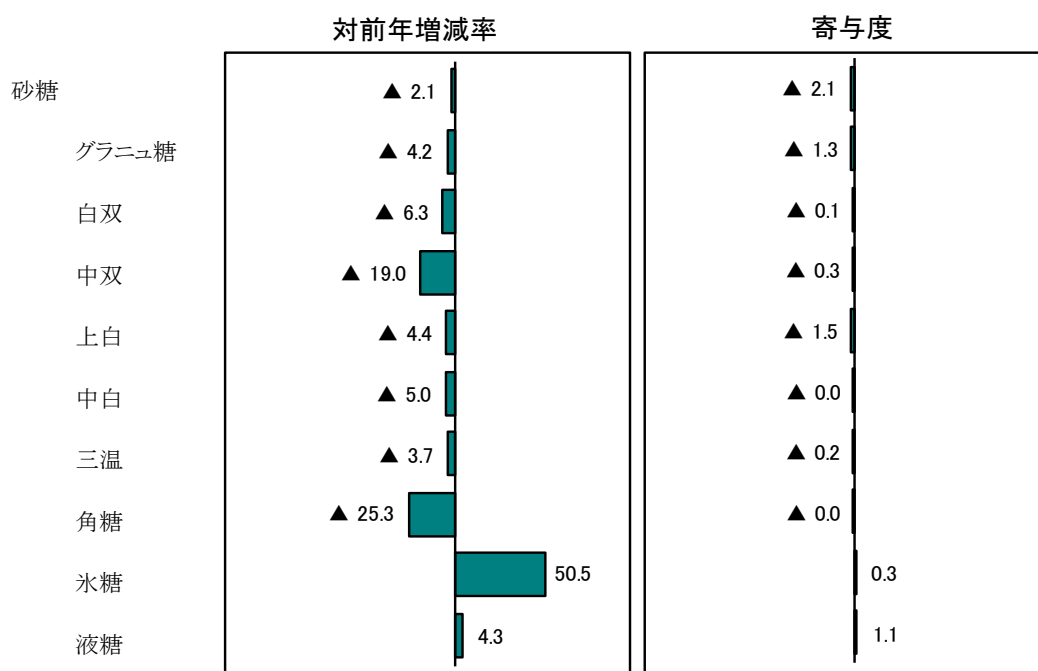


表 2-9 砂糖の品目別生産指数の推移

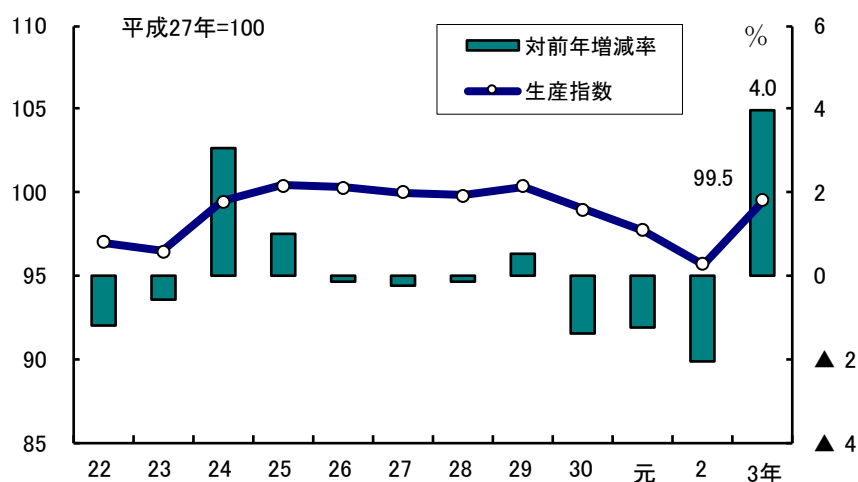
品目	年次 ウェイト (27年)	指数 (27年=100)					対前年増減率 (%)					寄与度 3年/2年
		27年	30年	令和元年	2年	3年	27年	30年	令和元年	2年	3年	
砂糖	15.9	100.0	99.5	97.7	90.2	88.3	▲ 3.6	▲ 1.8	▲ 1.8	▲ 7.7	▲ 2.1	▲ 2.1
グラニュー糖	4.8	100.0	104.0	101.6	93.5	89.6	▲ 1.3	▲ 1.3	▲ 2.3	▲ 8.0	▲ 4.2	▲ 1.3
白双	0.4	100.0	92.4	90.7	70.2	65.8	2.2	▲ 3.9	▲ 1.9	▲ 22.6	▲ 6.3	▲ 0.1
中双	0.3	100.0	78.9	78.8	73.8	59.8	0.6	▲ 17.9	▲ 0.2	▲ 6.3	▲ 19.0	▲ 0.3
上白	5.5	100.0	98.3	97.1	87.9	84.0	▲ 6.9	▲ 3.1	▲ 1.2	▲ 9.5	▲ 4.4	▲ 1.5
中白	0.0	100.0	92.5	79.9	72.3	68.7	3.7	13.2	▲ 13.6	▲ 9.5	▲ 5.0	▲ 0.0
三温	0.8	100.0	100.4	99.2	96.7	93.1	▲ 0.0	▲ 1.5	▲ 1.2	▲ 2.5	▲ 3.7	▲ 0.2
角糖	0.0	100.0	51.4	49.9	43.5	32.5	▲ 2.7	▲ 36.5	▲ 3.0	▲ 12.9	▲ 25.3	▲ 0.0
氷糖	0.1	100.0	103.5	116.5	78.3	117.9	▲ 16.4	15.1	12.6	▲ 32.8	50.5	0.3
液糖	3.9	100.0	100.7	95.4	91.7	95.7	▲ 2.8	▲ 2.7	▲ 2.6	▲ 3.9	4.3	1.1

7 調味料

令和3年の調味料の生産指数（平成27年=100、暫定値）は99.5で、対前年比4.0%とやや上昇した。なお、近年の推移は、平成25年から平成29年にかけて横ばいであったが、平成30年以降令和2年までは低下していたが、3年は上昇に転じている（図2-19）。

対前年比を品目別にみると、味噌はわずかに低下した。一方、ドレッシングはかなりの程度上昇した。また、しょうゆ等及びマヨネーズは前年並みとなった。なお、対前年比に対する寄与を品目別にみると、ドレッシングはプラスであり、味噌はマイナスであった（図2-20、表2-10）。

図2-19 調味料の生産指数の推移



味噌はわずかに低下、しょうゆ等は前年並み

味噌の生産量は46万2千トンで、生産指数は対前年比▲2.7%とわずかに低下した。

しょうゆ等の出荷量は102万5千klで、生産指数は対前年比0.1%と前年並みとなった。

マヨネーズは前年並み、ドレッシングはかなりの程度上昇

マヨネーズの生産量は21万8千トンで、生産指数は対前年比0.4%と前年並みとなった。また、ドレッシングの生産量は19万4千トンで、生産指数は対前年比6.6%とかなりの程度上昇した。

図 2-20 調味料の品目別生産指数の対前年増減率、寄与度

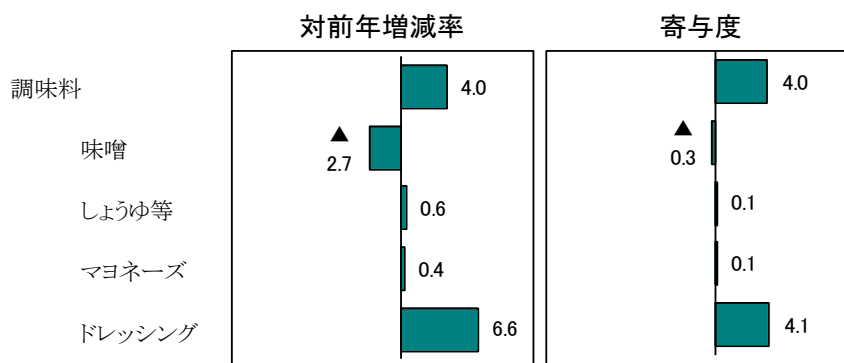


表 2-10 調味料の品目別生産指数の推移

品目	年次 ウェイト (27年)	指数 (27年=100)					対前年増減率 (%)					寄与度 3年/2年
		27年	30年	令和元年	2年	3年	27年	30年	令和元年	2年	3年	
調味料	778.2	100.0	98.9	97.7	95.7	99.5	▲ 0.3	▲ 1.4	▲ 1.3	▲ 2.0	4.0	4.0
味噌	73.1	100.0	103.6	104.3	102.8	100.1	0.1	▲ 0.8	0.7	▲ 1.4	▲ 2.7	▲ 0.3
しょうゆ等	98.2	100.0	99.4	99.3	95.1	95.6	▲ 1.4	▲ 1.1	▲ 0.0	▲ 4.3	0.6	0.1
マヨネーズ	108.6	100.0	102.8	104.9	101.2	101.6	0.7	▲ 0.9	2.0	▲ 3.5	0.4	0.1
ドレッシング	498.4	100.0	97.3	94.8	93.6	99.7	▲ 0.3	▲ 1.7	▲ 2.6	▲ 1.3	6.6	4.1

8 飲料

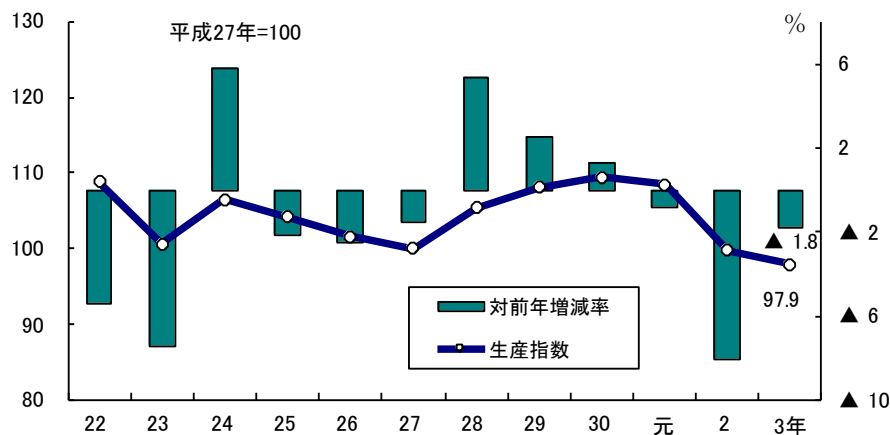
令和3年の飲料の生産指数（平成27年=100、暫定値）は97.9で、対前年比▲1.8%とわずかに低下した。なお、近年の推移は、横ばい傾向となっていたのが、令和2年以降低下している（図2-21）。

対前年比を品目別にみると、炭酸飲料及び果実飲料が対前年比でかなりの程度大幅に低下し、トマト飲料はわずかに低下した。一方、コーヒー・茶系飲料はわずかに上昇した。

コーヒー・茶系飲料は、令和2年には感染症の影響により、テレワークが定着し、コンビニ等によるビジネス需要が大きく減少したが、3年には回復の兆しがみられる。

なお、対前年比に対する寄与を品目別にみると、コーヒー・茶系飲料はプラスであったが、炭酸飲料、果実飲料及びトマト飲料でマイナスであった（図2-22、表2-11）。

図2-21 飲料の生産指数の推移



炭酸飲料及び果実飲料はかなりの程度低下

炭酸飲料の生産量は184万6千klで、生産指数は対前年比▲8.5%とかなりの程度低下した。また、果実飲料も生産量が56万6千klで、生産指数は対前年比▲7.3%とかなりの程度低下した。

コーヒー・茶系飲料はわずかに上昇

コーヒー・茶系飲料の生産量は947万8千klで、生産指数は対前年比1.2%とわずかに上昇した。

トマト飲料はわずかに低下

トマト飲料の生産量は10万2千klで、生産指数は対前年比▲2.6%とわずかに低下した。

図 2-22 飲料の品目別生産指数の対前年増減率、寄与度

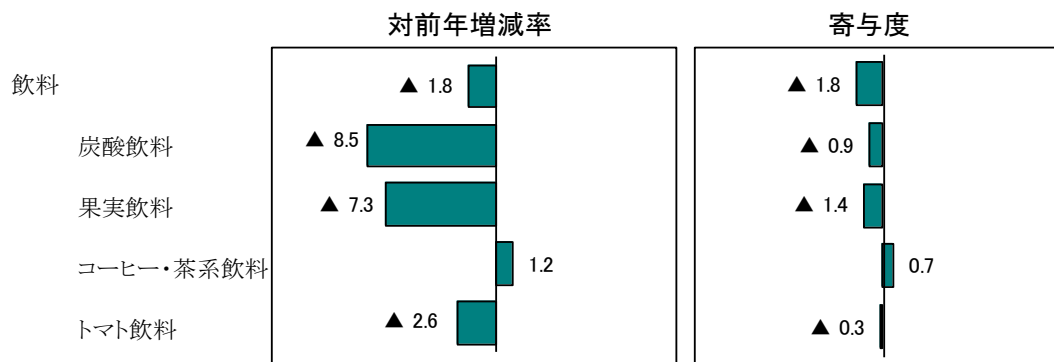


表 2-11 飲料の品目別生産指数の推移

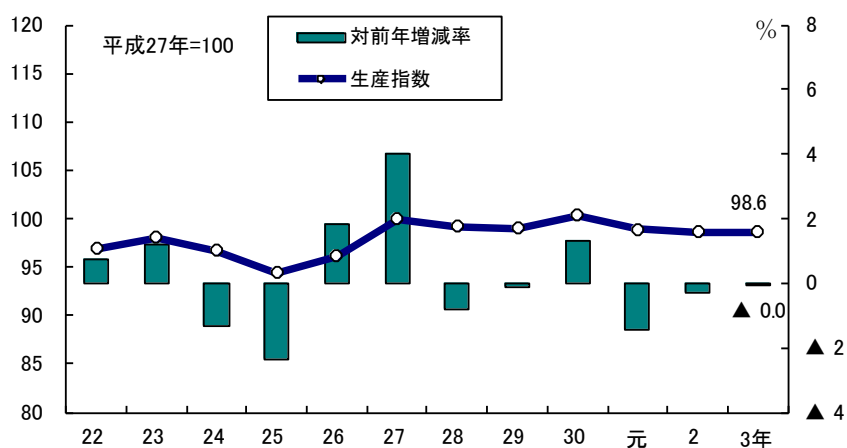
品目	年次 ウェイト (27年)	指数 (27年=100)					対前年増減率 (%)					寄与度 3年/2年
		27年	30年	令和元年	2年	3年	27年	30年	令和元年	2年	3年	
飲料	989.0	100.0	109.5	108.5	99.7	97.9	▲ 1.5	1.3	▲ 0.9	▲ 8.1	▲ 1.8	▲ 1.8
炭酸飲料	125.5	100.0	92.6	87.7	85.2	77.9	▲ 3.4	▲ 1.6	▲ 5.3	▲ 2.9	▲ 8.5	▲ 0.9
果実飲料	234.7	100.0	96.4	92.3	77.5	71.9	▲ 6.9	▲ 6.8	▲ 4.3	▲ 16.0	▲ 7.3	▲ 1.4
コーヒー・茶系飲料	568.0	100.0	112.6	113.6	105.8	107.0	2.2	3.5	0.8	▲ 6.9	1.2	0.7
トマト飲料	60.8	100.0	165.0	166.4	158.7	154.6	▲ 8.8	12.4	0.8	▲ 4.6	▲ 2.6	▲ 0.3

9 菓子

令和3年の菓子の生産指数（平成27年=100、暫定値）は98.6で、対前年比▲0.0%と前年並みとなった。なお、近年の推移は、平成27年以降横ばい傾向となっている（図2-23）。

対前年比を品目別にみると、ビスケットは対前年比でわずかに上昇し、一方、米菓はわずかに低下した。なお、対前年比に対する寄与については、ビスケットはプラス、米菓はマイナスであった（図2-24、表2-12）。

図2-23 菓子の生産指数の推移



ビスケットはわずかに上昇、米菓はわずかに低下

ビスケットの生産量は25万8千トンで、生産指数は対前年比1.7%とわずかに上昇した。一方、米菓の生産量は21万5千トンで、生産指数は対前年比▲2.2%とわずかに低下した。

図2-24 菓子の品目別生産指数の対前年増減率、寄与度

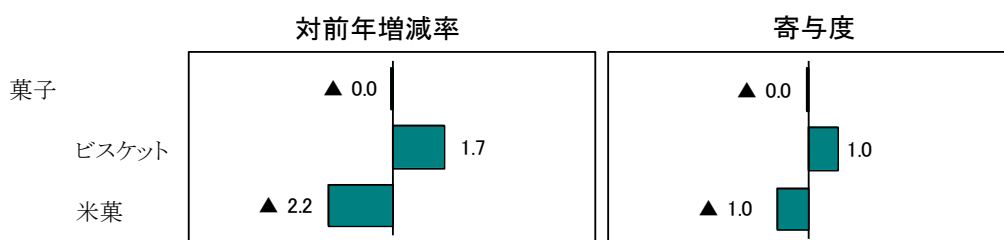


表1-12 菓子の品目別生産指数の推移

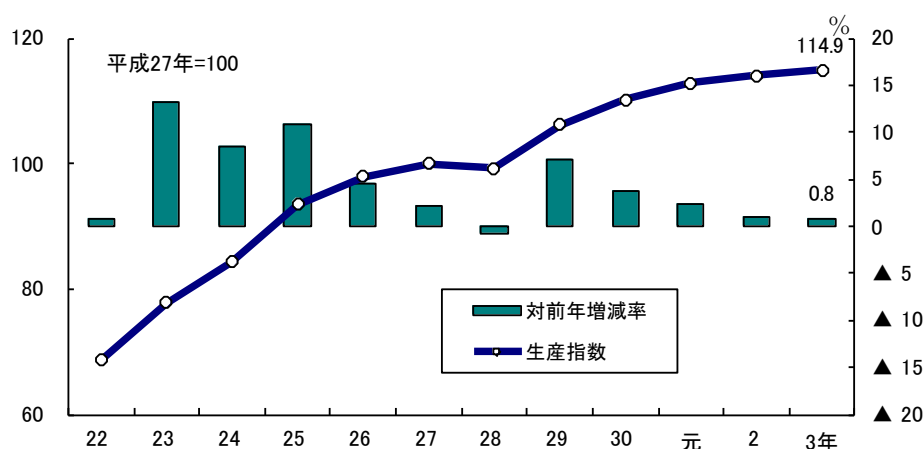
品目	年次 ウェイト (27年)	指数 (27年=100)					対前年増減率 (%)					寄与度 3年/2年
		27年	30年	令和元年	2年	3年	27年	30年	令和元年	2年	3年	
菓子	428.1	100.0	100.3	98.9	98.6	98.6	4.0	1.3	▲1.5	▲0.3	▲0.0	▲0.0
ビスケット	236.9	100.0	100.2	97.4	97.8	99.5	5.9	3.0	▲2.7	0.4	1.7	1.0
米菓	191.2	100.0	100.5	100.7	99.6	97.4	1.7	▲0.6	0.1	▲1.1	▲2.2	▲1.0

10 調理食品

令和3年の調理食品の生産指数（平成27年=100、暫定値）は114.9で、対前年比0.8%と前年並みとなった。なお、近年の推移は、平成23年の東日本大震災以降、備蓄需要の高まりや簡便化志向のニーズから、無菌包装米飯や冷凍米飯の市場拡大が続いてきたが、直近は停滞気味で推移している（図2-25）。

対前年比を品目別にみると、加工米飯がわずかに上昇した。一方、調理缶・レトルトパウチはわずかに低下した。なお、対前年比に対する寄与を品目別にみると、加工米飯はプラス、調理缶・レトルトパウチはマイナスであった（図2-26、表2-13）。

図2-25 調理食品の生産指数の推移



加工米飯はわずかに上昇

加工米飯の生産量は40万9千トンで、生産指数は対前年比1.1%とわずかに上昇した。加工米飯のなかでは継続的に無菌包装米飯の生産量が増加しており、手軽に食べられる簡便化志向のニーズに適していることや備蓄用から日常食としての位置づけが定着したことが一因とみられる。

カレーはやや上昇、その他の調理食品はやや低下

調理缶・レトルトパウチの生産量は42万6千トンで、生産指数は対前年比▲1.6%とわずかに低下した。内訳についてみると、カレーの生産量は17万4千トンで、生産指数は対前年比3.4%とやや上昇した。一方、その他の調理食品の生産量は25万2千トンで、生産指数は対前年比▲4.8%とやや低下した。

図 2-26 調理食品の品目別生産指数の対前年増減率、寄与度

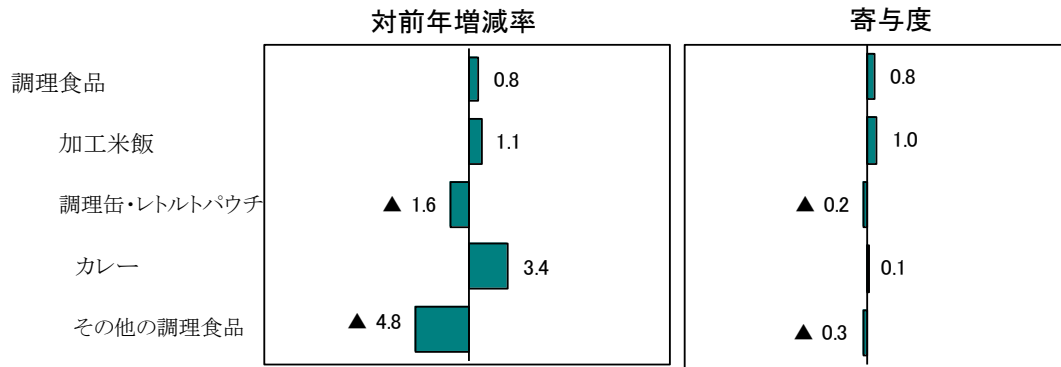


表 2-13 調理食品の品目別生産指数の推移

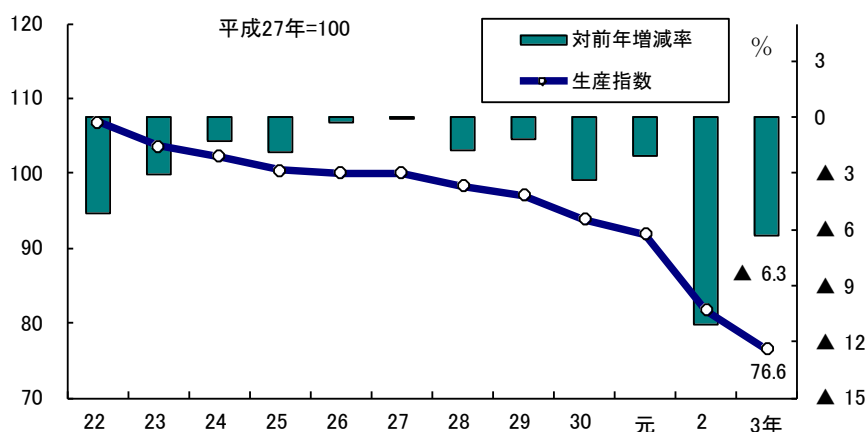
年次 品目	ウェイト (27年)	指数 (27年=100)					対前年増減率 (%)					寄与度 3年/2年
		27年	30年	令和元年	2年	3年	27年	30年	令和元年	2年	3年	
調理食品	992.2	100.0	110.2	112.9	114.0	114.9	2.2	3.8	2.4	1.0	0.8	0.8
加工米飯	869.4	100.0	111.7	114.1	115.8	117.1	2.6	4.6	2.2	1.5	1.1	1.0
調理缶・レトルトパウチ	122.8	100.0	100.2	103.9	101.3	99.6	▲ 0.5	▲ 2.0	3.7	▲ 2.6	▲ 1.6	▲ 0.2
カレー	43.2	100.0	110.9	122.7	111.7	115.5	▲ 1.2	3.5	10.6	▲ 8.9	3.4	0.1
その他の調理食品	79.6	100.0	94.3	93.7	95.6	91.0	▲ 0.1	▲ 5.2	▲ 0.6	2.0	▲ 4.8	▲ 0.3

11 酒類

令和3年の酒類の生産指数（平成27年=100、一部推定を含む暫定値）は76.6で、対前年比▲6.3%とかなりの程度低下した。令和2年から続く感染症対策による自治体等からの飲食店等への時短・休業要請の影響が大きいと見受けられる。また、近年の推移も、低下傾向にある（図2-27）。

対前年比を品目別にみると、スピリッツが対前年比でかなり大きく上昇した。一方、清酒及び合成清酒はかなり大きく低下し、焼酎、果実酒、ウイスキー、リキュール及び雑酒はかなりの程度低下し、ビール及びブランデーはやや低下し、みりんはわずかに低下した。なお、対前年比に対する寄与を品目別にみると、スピリッツはプラス、焼酎、清酒、ビール、雑酒、ウイスキー、リキュール及び果実酒はマイナスであった。特に焼酎、清酒及びビールの低下が全体を押し下げている（図2-28、表2-14）。

図2-27 酒類の生産指数の推移



ビールはやや低下

ビールの出荷量（1～11月）は163万5千klで、生産指数は対前年比▲3.2%とやや低下した。発泡酒やノンアルコールのビール風味商品など低価格商品への移行に加え、令和2年から続く感染症対策のための飲食店への時短・休業要請の影響によるものと見受けられる。

また、特に若者の酒類離れが大きく響いているものとみられる。

焼酎、ウイスキーはいずれもかなりの程度低下

焼酎の出荷量（1～11月）は59万6千klで、生産指数は対前年比▲9.0%とかなりの程度低下した。また、ウイスキーについても出荷量（1～11月）が11万5千klで、生産指数は対前年比▲9.7%とかなりの程度低下した。

スピリッツはかなり大きく上昇、リキュールはかなりの程度低下

スピリッツの出荷量（1～11月）は90万6千klで、生産指数は対前年比11.0%とかなり大きく上昇した。一方、リキュールの出荷量（1～11月）は218万klで、生産指数は対前年比▲7.5%とかなりの程度低下した。

図 2-28 酒類の品目別生産指数の対前年増減率、寄与度

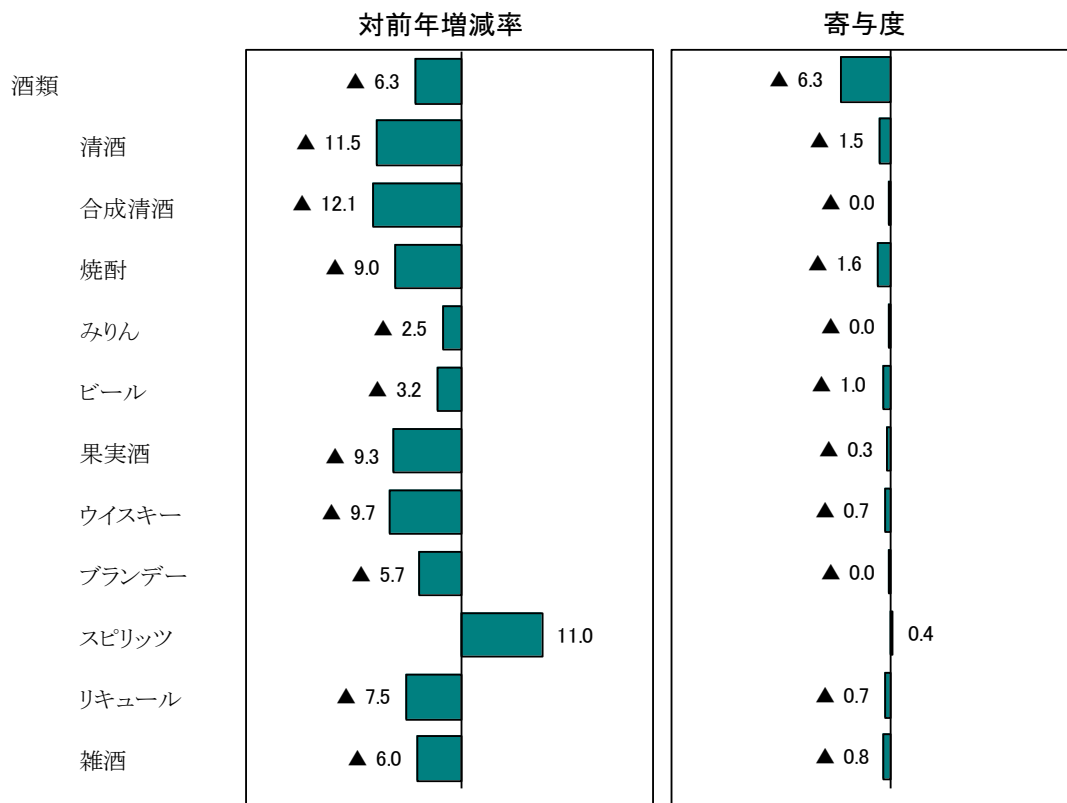


表 2-14 酒類の品目別生産指数の推移

品目	年次 ウェイト (27年)	指数 (27年=100)					対前年増減率 (%)					寄与度 3年/2年
		27年	30年	令和元年	2年	3年	27年	30年	令和元年	2年	3年	
酒類	1,731.5	100.0	93.8	91.9	81.7	76.6	▲ 0.0	▲ 3.4	▲ 2.0	▲ 11.1	▲ 6.3	▲ 6.3
清酒	242.8	100.0	89.2	84.1	75.4	66.7	▲ 2.0	▲ 7.1	▲ 5.7	▲ 10.4	▲ 11.5	▲ 1.5
合成清酒	4.5	100.0	79.6	74.2	60.1	52.8	▲ 4.7	▲ 9.8	▲ 6.8	▲ 19.0	▲ 12.1	▲ 0.0
焼酎	288.9	100.0	92.5	88.9	85.5	77.8	▲ 2.8	▲ 4.4	▲ 3.9	▲ 3.8	▲ 9.0	▲ 1.6
みりん	25.5	100.0	93.3	93.4	85.8	83.7	3.6	▲ 5.0	0.1	▲ 8.1	▲ 2.5	▲ 0.0
ビール	637.7	100.0	90.6	87.2	67.3	65.2	0.3	▲ 5.1	▲ 3.7	▲ 22.8	▲ 3.2	▲ 1.0
果実酒	44.7	100.0	107.3	105.7	112.5	102.0	1.2	4.4	▲ 1.5	6.4	▲ 9.3	▲ 0.3
ウイスキー	88.6	100.0	130.7	141.1	119.3	107.7	17.2	9.7	8.0	▲ 15.5	▲ 9.7	▲ 0.7
ブランデー	0.2	100.0	80.3	78.2	73.2	69.1	▲ 4.0	▲ 10.5	▲ 2.6	▲ 6.4	▲ 5.7	▲ 0.0
スピリッツ	23.8	100.0	150.8	172.9	188.9	209.8	12.1	16.3	14.6	9.3	11.0	0.4
リキュール	97.3	100.0	113.2	123.8	133.5	123.5	1.4	7.9	9.5	7.8	▲ 7.5	▲ 0.7
雑酒	277.4	100.0	81.2	76.6	72.0	67.7	▲ 2.5	▲ 8.3	▲ 5.7	▲ 6.0	▲ 6.0	▲ 0.8

(参考) 主要品目の生産量の推移 (平成22年～令和3年)

